

勉誠社

歴史科学協議会 会員様対象 特別割引のご案内

全品 **20%OFF**

割引クーポンコード:bd0d53fdc1
(期限:~2024年7月31日)

謹啓

薫風の候、日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠社タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

謹白

●ご注文について

- 弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード:bd0d53fdc1 (期限:~2024年7月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください!

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- 3,000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス**
(※ 3,000円未満の場合は、300円を頂戴いたします。海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
歴史科学協議会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

【勉誠社】研究書 近刊・新刊書籍リスト

2023・2024年刊行分 **20%引き**

	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価(税込)	割引価格	注文数
■事典・総記■							
	世界の絵本・作家 総覧	O.L.V. (おおぶ文化交流の杜図書館ボランティアグループ)・おおぶ文化交流の杜図書館 編	2024/06	30013-7	22,000	17,600	
	世界神話伝説大事典(オンデマンド版)	篠田知和基・丸山顯徳 編	2023/10	80036-1	27,500	22,000	
	江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029-6	35,200	28,200	
	書物学 第25巻 古典籍の文献学―鶴見大学図書館の蒐書を巡る	編集部 編	2024/04	30725-9	2,200	1,800	
	書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり―近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723-5	2,200	1,800	
	書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ ―香雪美術館書画コレクションを支える装演修理の世界	編集部 編	2023/04	30724-2	1,980	1,600	
	書物学 第22巻 禅寺の学問―相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722-8	1,980	1,600	
■歴史・文化財・美術史・思想■							
近刊	都市鎌倉の展開と鶴岡八幡宮の社人集団	佐藤博信 著	2024/08	32050-0	8,800	7,000	
近刊	開かれた鎖国―入り船と出船	片桐一男 著	2024/08	32046-3	8,800	7,000	
	和紙を科学する―製紙技術・繊維分析・文化財修復	大川昭典 著	2024/06	35002-6	4,620	3,700	
	古文書研究 第97号	日本古文書学会 編	2024/06	32407-2	4,180	3,300	
	近世長崎渡来人文運史―言語接触と文化交流の諸相	若木太一 著	2024/06	32044-9	14,300	11,400	
	永平廣録 大全―『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究ならびに解題・関連資料集成	大谷哲夫 編著	2024/06	31017-4	71,500	57,200	
	戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌	石川巧 編集代表/ カストリ雑誌編集委員会 編	2024/05	39039-8	3,080	2,500	
	増補改訂版 室町時代の将軍家と天皇家	石原比伊呂 著	2024/05	32047-0	9,900	7,900	
	増補改訂版 画像学入門―疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014-7	2,640	2,100	
	古文書修復講座―歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修/ 関口博巨 編	2024/03	32035-7	4,180	3,300	
	三井大坂両替店の顧客信用情報―享保一七年から明治二年まで	萬代悠 編	2024/03	32042-5	16,500	13,200	
	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす ―東アジアの思想・文物・藝術	外村中・稲本泰生 編	2024/03	37012-3	15,400	12,300	
	湖北省留日学生と明治日本	王鼎 著	2024/03	32043-2	7,700	6,200	
	器と信仰―東アジアの舍利莊嚴をめぐる美術史・考古学からのアプローチ 彰義隊士の手紙―続『新彰義隊戦史』	加島勝 編 大藏八郎 著	2024/03 2024/03	32041-8 32036-4	16,500 22,000	13,200 17,600	
	日本近世史入門―ようこそ研究の世界へ!	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美 編	2024/02	32034-0	4,180	3,300	
	コレクションと歴史意識 ―十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし	古畑侑亮 著	2024/02	32038-8	11,000	8,800	
	近世後期の海防と社会変容	清水詩織 著	2024/02	32037-1	11,000	8,800	
	朝鮮時代ソウル都市史	高東煥 著/野崎充彦・金子祐樹 訳	2024/02	32039-5	9,900	7,900	
	泰山諸神の信仰の展開―東岳大帝から碧霞元君へ	二ノ宮聡 著	2024/01	31018-1	8,800	7,000	
	物語る仏教絵画―童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011-6	11,000	8,800	
	紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝 (新コディコロジー研究会) 編	2023/11	39036-7	4,950	4,000	
	国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの	総本山仁和寺 監修/宇都宮啓吾 編	2023/12	31012-9	13,200	10,600	
	増補改訂 江戸の異性装者たち ―セクシュアルマイノリティの理解のために	長島淳子 著	2023/12	32033-3	3,520	2,800	
	古文書研究 第96号	日本古文書学会 編	2023/12	32406-5	4,180	3,300	
	訂正新版 図説 書誌学―古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010-6	3,850	3,100	
	本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/11	39030-5	30,800	24,600	
	東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田歆 編	2023/10	32032-6	13,200	10,600	
	続々 戦国武将逸話集―訳注『常山紀談』巻十六～二十五(オンデマンド)	湯浅常山 原著/大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95443-9	2,970	2,400	
	別冊 戦国武将逸話集―訳注『常山紀談』拾遺 巻一～四・附録 雨夜燈(オンデマンド版)	湯浅常山 原著/大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95444-6	2,970	2,400	
	江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕(オンデマンド版)	岡雅彦・市古夏生・大橋正叔・岡本勝・落合博志・雲英未雄・鈴木俊幸・堀川貴司・柳沢昌紀・和田恭幸 編	2023/10	80452-9	27,500	22,000	
	重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010-9	24,200	19,400	
	日本人の読書―古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2023/09	39033-6	13,200	10,600	
	機巧の文化史 異聞―海を渡った三台のからくり人形	村上和夫 著	2023/08	32031-9	4,950	4,000	
	古文書研究 第95号	日本古文書学会 編	2023/07	32405-8	4,180	3,300	
	大谷哲夫先生傘寿記念論集 禅の諸展開	大谷先生傘寿記念論集編集委員会 編	2023/07	31015-0	11,000	8,800	
	野村太一郎の狂言入門	野村太一郎・杉山和也 著	2023/07	37005-5	3,080	2,500	
	近世戯作の〈近代〉(オンデマンド版)―継承と断絶の出版文化史	山本和明 著	2023/07	99174-8	9,900	7,900	
	地方史誌から世界史へ―比較地方史誌学の射程	小二田章 編	2023/06	32028-9	8,800	7,000	
	霊峰の文化史―世界遺産・富士山と世界の山岳信仰	秋道智彌 著	2023/05	33005-9	3,520	2,800	
	江戸時代の貸本屋―庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029-9	5,500	4,400	
	網川図と蘭亭曲水図―イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009-3	10,450	8,400	
	モノと権威の東アジア交流史―鑑真から清盛まで	シャルロット・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022-7	5,280	4,200	

深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集 —近世京洛寺院の学問とネットワーク	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・ 中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子	2023/03	31013-6	22,000	17,600
黄泉の国との契約書—東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030-2	4,180	3,300
二一世紀の川劇—文化資源化の視点から	江玉 著	2023/03	37007-9	7,480	6,000
グレーゾーンと帝国—歴史修正主義を乗り越える生の営み	高綱博文・門間卓也・関智英 編	2023/03	32027-2	5,720	4,600
文と書—中国書字思想の探究	亀澤孝幸 著	2023/03	37008-6	8,800	7,000
古代日本の儀礼と音楽・芸能—一場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800
明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2023/02	32025-8	3,520	2,800
日ソ戦争史の研究	日ソ戦争史研究会 編	2023/02	32026-5	13,200	10,600
鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	館隆志 著	2023/02	31014-3	14,850	11,900
中世醍醐寺と真言密教（オンデマンド版）	藤井雅子 著	2023/01	83170-9	10,780	8,600
■ 古典文学・文学史 ■					
広益体 妖怪普及史	伊藤慎吾・水厘亭氷泉・式水下流・永島大 輝・幕張本郷猛・御田鉄・毛利恵太	2024/07	32040-1	3,520	2,800
新装版 正訳 紫式部日記 本文対照	中野幸一 訳	2024/05	39041-1	2,420	1,900
ラテンアメリカ文学の出版文化史—作家・出版社・文芸雑誌と国際的文学 ネットワークの形成	寺尾隆吉 編著	2024/05	39040-4	6,050	4,800
中国古典戯曲演劇論	岡晴夫 著	2024/04	37015-4	16,500	13,200
球陽外巻 遺考説伝	前村佳幸 校注	2024/04	32048-7	8,800	7,000
杜甫研究年報 第七号	日本杜甫学会 編	2024/04	39447-1	2,200	1,800
水門 第三十一号	水門の会 編	2024/03	32462-1	3,850	3,100
川端康成の曖昧な声—日本語の小説における文体と身体との交点	平井裕香 著	2024/03	39038-1	6,600	5,300
本 かたちと文化—古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 編	2024/02	30011-3	3,080	2,500
本 かたちと文化（電子版）—古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 編	2024/02	70011-1	3,080	2,500
歴史叙述としての平家物語	塩山真奈 著	2024/02	39037-4	8,800	7,000
今昔物語集の怪異を読む—巻第二十七「霊鬼」	森正人 著	2023/12	39034-3	5,280	4,200
正訳 源氏物語 本文対照 第二冊（オンデマンド版）—末摘花／紅葉賀 ／花宴／葵／賢木／花散里	中野幸一 訳	2023/12	89572-5	2,750	2,200
正訳 源氏物語 本文対照 第三冊（オンデマンド版）—須磨／明石／湊 標／蓬生／関屋／絵合／松風	中野幸一 訳	2023/12	89573-2	2,750	2,200
中国古典文学に描かれた廁・井戸・簀（オンデマンド版）—民俗学的視点 に基づく考察	山崎藍 著	2023/12	89200-7	9,900	7,900
紫式部伝—平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035-0	5,940	4,800
比較文学で読む十一の出会い—交差する東西のまなざし	英米文化学会 編	2023/08	39032-9	3,080	2,500
紫式部集の世界	廣田収・横井孝 編	2023/07	39031-2	10,780	8,600
日本と東アジアの（環境文学）	小峯和明 編	2023/07	39018-3	16,500	13,200
中国古典をどう読むか—規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027-5	4,180	3,300
深掘り！紫式部と源氏物語	中野幸一 著	2023/04	39010-7	2,640	2,100
平安文学の饗宴	中野幸一 編	2023/04	39028-2	16,500	13,200
杜甫研究年報 第六号	日本杜甫学会 編	2023/04	39446-4	3,300	2,600
俊頼髄脳全注釈	家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・館野文 昭・福田亮雄 著	2023/03	39025-1	16,500	13,200
学習院本「藤袴」（榊原本傍帖）の書誌学的考察	武藤那賀子 著	2023/03	39023-7	16,500	13,200
近世後期江戸小説論攷	山本和明 著	2023/02	39022-0	11,000	8,800
伝承と現代—民俗学の視点と可能性	加藤秀雄 著	2023/02	33004-2	8,800	7,000
源氏物語歌篋	伊東祐子 著	2023/02	39017-6	7,150	5,700
王朝物語論考—物語文学の端境期	横溝博 著	2023/02	39024-4	13,200	10,600
谷崎潤一郎の世界史—『陰翳礼讃』と20世紀文化交流	西村将洋 著	2023/02	39020-6	5,280	4,200
宣教師の日本語文学 研究と目録	郭南燕 編著	2023/02	39026-8	12,100	9,700
フェイク・スペクトラム—文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015-2	3,520	2,800
文学から環境を考える エコクリティシズムガイドブック （オンデマンド版）	小谷一明・巴山岳人・結城正美・豊里真 弓・喜納育江 編	2023/01	89080-5	3,080	2,500
■ 日本語学・言語学 ■					
日本人は漢文をどう読んだか—直読から訓読へ	湯沢質幸 著	2024/05	38005-4	3,520	2,800
論究日本近代語 第3集	日本近代語研究会 編	2024/04	38523-3	16,500	13,200
楷書の秘密—「字様」が発見されるまで	西原一幸 著	2024/02	38005-4	4,180	3,300
方言地理学の視界	小林隆・大西拓一郎・篠崎晃一 編	2023/05	38003-0	8,800	7,000
■ (アジア遊学) ■					
294 秀吉の天下統一—奥羽再仕置	江田郁夫 編	2024/06	32540-6	3,520	2,800
293 彷徨する宗教性と国民諸文化 —近代化する日独社会における神話・宗教の諸相	前田良三 編	2024/02	32539-0	3,300	2,600
292 中国学の近代的展開と日中交渉	陶徳民・吾妻重二・永田知之 編	2023/12	32538-3	3,850	3,100
291 五代十国—乱世のむこうの「治」	山根直生 編	2023/12	32537-6	3,520	2,800
290 女性の力から歴史をみる—柳田国男「妹の力」論の射程	永池健二 編	2023/11	32536-9	3,300	2,600
289 海外の日本中世史研究—「日本史」・自国史・外国史の交差	黄霄龍・堀川康史 編	2023/11	32535-2	3,520	2,800
288 東アジアの「孝」の文化史 —前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雋雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534-5	3,520	2,800
287 書物の時代の宗教—日本近世における神と仏の変遷	岸本寛・曾根原理 編	2023/09	32533-8	3,080	2,500

286	近代アジアの文学と翻訳—西洋受容・植民地・日本	波淵剛・西槇偉・林信蔵・藤原まみ 編	2023/08	32532-1	3,300	2,600	
285	渾沌と革新の明治文化—文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531-4	3,080	2,500	
284	近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530-7	3,080	2,500	
283	東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529-1	3,520	2,800	
282	列島の中世地下文書—諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528-4	3,300	2,600	
281	神道の近代—アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527-7	3,520	2,800	
280	都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526-0	3,300	2,600	
279	上海フランス租界への招待—日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525-3	3,520	2,800	
■図書館学・アーカイブ■							
	アーカイブズ学入門	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 編	2024/07	30012-0	3,080	2,500	
	ひらかれる公共資料—「デジタル公共文書」という問題提起 (デジタルアーカイブ・ベーシック)	福島幸宏 責任編集	2023/11	30303-9	3,520	2,800	
	博物館情報学入門【アート・ドキュメンテーション叢書2】(オンデマンド版)	E Orna & Ch. Pettitt 著/安澤秀一 監修 /水嶋英治 編訳	2023/09	80172-6	3,850	3,100	
	共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ	鈴木親彦 責任編集	2023/07	30302-2	3,520	2,800	
	デジタルアーカイブの新展開	時実象一 著	2023/03	30009-0	2,310	1,800	
歴史関連書籍(2022年・2021年刊行) 20%引き							
	生産・流通・消費の近世史(オンデマンド版)	渡辺尚志 編	2022/11	82153-3	8,800	7,000	
278	呪術と学術の東アジア—陰陽道研究の継承と展望	陰陽道史研究会 編	2022/12	32524-6	3,300	2,600	
277	宋代とは何か—最前線の研究が描き出す新たな歴史像	平田茂樹・山口智哉・小林隆道・梅村尚樹 編	2022/11	32523-9	3,520	2,800	
	書物学 第20巻 追憶のサムライ—中世武士のイメージとリアル	横浜市歴史博物館 編	2022/10	30720-4	1,980	1,600	
	むらり人たちの生活モード—中世日本民衆生活史入門	蔵持重裕 著	2022/10	32018-0	4,180	3,300	
	公文書管理法時代の自治体と文書管理	宮間純一 編	2022/10	30008-3	6,600	5,300	
	村と民衆の戦国時代史—藤木久志の歴史学【アジア遊学276】	稲葉継陽・清水克行 編	2022/10	32522-2	3,300	2,600	
	「唐物」とは何か—舶載品をめぐる文化形成と交流【アジア遊学275】	河添房江・皆川雅樹 編	2022/10	32520-8	3,080	2,500	
	呉越国 10世紀東アジアに華開いた文化国家【アジア遊学274】	瀧朝子 編	2022/10	32521-5	3,520	2,800	
	ナチスとユダヤ企業—経済の脱ユダヤ化と水晶の夜	山本達夫 著	2022/09	33003-5	8,800	7,000	
	上杉本洛中洛外図屏風の研究—桑実寺縁起絵巻と共に	小谷量子 著	2022/09	32020-3	9,900	7,900	
	日本の中世貨幣と東アジア【アジア遊学273】	中島圭一 編	2022/09	32519-2	3,520	2,800	
	近世期百姓の土地所持意識と村落共同体	菅原一 著	2022/08	32019-7	8,800	7,000	
	対馬の渡来版経—護り伝える東アジアの至宝【アジア遊学272】	横内裕人 編	2022/08	32518-5	3,520	2,800	
	伝達と変容の日本建築史—伝わるかたち/伝えるわざ	野村俊一 編	2022/07	35001-9	3,850	3,100	
	醍醐寺の仏像 第三巻 明王	総本山醍醐寺 監修/副島弘道 編	2022/07	37203-5	46,200	37,000	
	儒教思想と絵画—東アジアの勸戒画【アジア遊学271】	水野裕史 編	2022/06	32517-8	3,520	2,800	
	史学科の比較史—歴史学の制度化と近代日本	小澤実・佐藤雄基 編	2022/05	32017-3	7,700	6,200	
	中世東国日蓮宗寺院の地域的展開	佐藤博信 著	2022/05	32016-6	13,200	10,600	
	日本中世の課税制度—段銭の成立と展開【アジア遊学270】	志賀節子・三枝暁子 編	2022/05	32516-1	3,080	2,500	
	北条義時の生涯—鎌倉幕府の草創から確立へ	菊池紳一 監修/北条氏研究会 編	2022/04	32014-2	3,080	2,500	
	中世神道入門—カミとホトケの織りなす世界	伊藤聡・門屋温 監修/新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也 編	2022/04	31006-8	4,180	3,300	
	宋版一切経(福州版) 調査提要—本源寺蔵の調査を通して 奈良絵本『太平記』の世界 —永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究	福州版一切経調査研究会 編	2022/03	31010-5	7,150	5,700	
	コレクションとアーカイブ—東アジア美術研究の可能性	中根千絵・森田貴之 編	2022/03	39007-7	55,000	44,000	
	宗教芸能としての能楽【アジア遊学265】	板倉聖哲・塚本麿充 編	2022/01	37000-0	10,450	8,400	
	高橋悠介 編	2022/01	32511-6	3,300	2,600		
	合戦図 描かれた(武)	中根千絵・薄田大輔 編	2021/12	32013-5	17,600	14,100	
	都市からひもとく西アジア—歴史・社会・文化【アジア遊学264】	守川知子 編	2021/12	32510-9	3,080	2,500	
	室町文化の座標軸—遣明船時代の列島と文事	芳澤元 編	2021/10	32011-1	10,780	8,600	
	日本中世社会と村住人	蔵持重裕 編	2021/10	32009-8	10,450	8,400	
	首里城を解く—文化財継承のための礎を築く	高良倉吉 監修/島村幸一 編	2021/09	32001-2	4,180	3,300	
	戦国時代劇メディアの見方・つくり方—戦国イメージと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2021/09	32006-7	3,520	2,800	
	中世武家領主の世界—現地と文献・モノから探る	田中大喜 編	2021/08	32003-6	4,180	3,300	
	近世の村と百姓	渡辺尚志 著	2021/08	32002-9	10,780	8,600	
	書物のなかの近世国家—東アジア「一統志」の時代【アジア遊学259】	小二田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/08	32505-5	3,300	2,600	
	史料が語る東インド航路—移動がうみだす接触領域【アジア遊学258】	水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志 編	2021/07	32504-8	3,080	2,500	
	書物・印刷・本屋—日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/06	30002-1	17,600	14,100	
	創られた由緒—近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/06	31002-0	8,800	7,000	
	中世寺院の仏法と社会	永村眞 編	2021/06	31001-3	13,200	10,600	
	パブリック・ヒストリー入門(オンデマンド版) —開かれた歴史学への挑戦	菅豊・北條勝貴 編	2021/05	82254-7	5,280	4,200	
	勤番武士の江戸滞在記—国枝外右馬江戸中日記	岩淵令治 編	2021/03	32000-5	11,000	8,800	
	増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/02	22280-4	4,180	3,300	
	中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/02	22300-9	10,450	8,400	
	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/02	22301-6	9,900	7,900	
	古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/01	22277-4	3,300	2,600	

神奈川県立日本常民文化研究所(監修)・関口博巨(編)

古文書修復講座

歴史資料の継承のために

歴史資料を残し、伝えていくために――

日本においては、歴史を伝える資料、特に古文書・古記録などの紙を利用した史資料が多く残されている。これらは博物館や資料館、図書館などで管理されているもののみではなく、家屋や倉庫などの奥底、さらには襖の下張りや表紙の裏などに残され、破損・水損・虫害など、さまざまなリスクに囲まれている。傷んでしまった史資料は、どのように対処し、管理していくべきなのか。長年にわたり、古文書の調査のみならず保存・管理の方法論を検討し、史資料の取り扱いかたのレクチャーを行ってきた神奈川県立日本常民文化研究所のノウハウ・知見を、豊富なカラー写真とともに余すところなく紹介する必備の一冊。

博物館・資料館・図書館等、古文書を取り扱う方々に必携の書

【監修者プロフィール】

神奈川県立日本常民文化研究所

日本民衆の生活・文化・歴史を多様な領域において調査・研究する、神奈川県立日本常民文化研究所の学際的研究機関。

1921年に渋沢栄一の孫である渋沢敬三が創設した“アチックミュージアムソサエティ”を前身として、日本各地の生活文化、中でも民具や水産史の研究を中心に活動を進め、戦前・戦後の日本常民文化研究所を経て神奈川県立に招致され、2021年で創立100周年をむかえた。

2023年には、神奈川県立日本常民文化研究所は博物館相当施設に指定され、常民文化ミュージアムがリニューアルオープンしている(<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/about/>)。

【編者プロフィール】

関口博巨(せきぐち・ひろお)

1960年生まれ。神奈川県立日本常民文化研究所国際日本学部准教授。専門は日本近世史。著書に『近世村落の領域と身分』(吉川弘文館、2021年)、『古文書を学ぶ』(御茶の水書房、2021年)、論文に『水軍の記憶』を編む――二神種章の歴史叙述』(『歴史と民俗』35、平凡社、2019年)などがある。

【もくじ】

はじめに…関口博巨

1.古文書修復実習開催の背景

古文書返却の旅

常民研による古文書修復のはじまり

恒例化した古文書修復実習

2.本書の構成

古文書修復(1):記録・解体(実習1)…白水智

古文書修復(2):修理―古文書の裏打ちと繕い(実習2)…山口悟史

古文書修復(3):復原(実習3)…関口博巨

下張り文書の剥離と洗浄(実習4)…平田茉莉子・中村 慧

整理(実習5)…白水 智

column

古文書を食べる虫…山口悟史

近現代史料の整理をはじめる前の手当て…平田茉莉子

水損古文書を救う―乾燥・洗浄処置と開披方法…山口悟史

古文書修理の接着剤…山口悟史

モノとしての古文書と民具―複合資料論の試み…関口博巨

民具と古文書の間…石野律子

偽作された古文書…日座久美子

表具師・経師と修復…平田茉莉子

渋沢敬三が求めた「常民古文書」…窪田涼子

時代をまたぐ史料をどのように整理するか…白水 智

神奈川県立日本常民文化研究所について

あとがき…関口博巨

執筆者紹介

カラー図版
約350点
掲載!

定価 4,180 円(本体価格 3,800 円)

B5判並製カバー装・フルカラー 192頁
ISBN978-4-585-32035-7 C1021
2024年3月刊行

書名	部数
古文書修復講座 歴史資料の継承のために 神奈川県立日本常民文化研究所(監修)・関口博巨(編者)	部
ご送付先ご住所・氏名(通信欄)	

和紙を科学する

製紙技術・ 繊維分析・ 文化財修復

(おおかわ・あきのり)一九四二年生まれ。和紙研究家。専門は製紙技術。論文に「製紙に関する古代技術の研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」(増田勝彦と共著「保存科学」20、一九八一年、「同」22、一九八三年、「同」24、一九八五年)、「古代の造紙技術について」(延世大学校国文学研究院「東方學志」106、一九九九年)、「浮世絵の紙」(日本分析科学会「ふんせき」3、二〇〇三年)などがある。

大川昭典 著

カラー口絵

緒言◎湯山賢一(東大寺ミュージアム館長)

第一部 日本古代の製紙技術

古代の造紙技術について
製紙に関する古代技術の研究◎大川昭典・増田勝彦
製紙に関する古代技術の研究(Ⅱ)——打紙に関する研究◎増田勝彦・大川昭典
製紙に関する古代技術の研究(Ⅲ)——苧麻布・楮の白搗による叩解◎大川昭典・増田勝彦
「特別寄稿」正倉院宝物の紙調査成果における大川昭典氏の功績◎増田勝彦

第二部 和紙の製法と材料

料紙の構造と組成について
和紙つくりについて
楮・雁皮配合紙の手漉き試験
材料からみた和紙の歴史的变化
「コラム」土佐七色紙の復元◎有吉正明

第三部 料紙調査の技法と分析

文書紙の繊維組成及び填料の観察
繊維形態及びC染色液による呈色
浮世絵の紙——時を隔てた二作品の用紙を分析して
箔打紙比較試験

「対談」料紙研究の視点◎大川昭典×湯山賢一

あとがき・初出一覧

図書館・文書館・文化財関係者、必備の書！

古文書・古典籍・絵画など、日本には「紙」の文化財が数多く残されている。これらの料紙には、どのような材料が使用され、どのような漉き方、加工が施されたのか。また、色や大きさを選定する背景には、どのような価値観があったのか——紙はその当時の人びとの心性や文化体系をいまに伝える貴重な史料である。それらの文化財を守り、伝えていくためには、
基盤となる紙の調査・分析を欠くことができない。
四十数年に及び、先駆的に紙の文化財の調査・科学的分析に関わり、料紙の材料や構造・製法の研究において、数多くの実績を残し、修理用紙の作成、料紙の復元などにも尽力してきた著者の知見を初めて集成。現在、大きな展開を見せている「紙」の研究の基盤と歩みを提示する画期的な一冊。



美濃紙の電子顕微鏡写真

定価4,620円・本体4,200円
B5判並製カバー装・256頁(口絵16頁)
2024年6月刊行
ISBN978-4-585-35002-6 C1058

書名	冊数
和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復 大川昭典〈著〉	冊
定価4,620円・本体4,200円 B5判並製カバー装・256頁(口絵16頁) 2024年6月刊行 ISBN978-4-585-35002-6 C1058	
ご送付先ご住所(通信欄)	

電子書籍（フルカラー版）同時刊行！！

本書ご購入の方には、
電子書籍を半額で販売いたします。
ご希望の方は【info@bensei.jp】まで
お問い合わせください。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

〈編〉

本 かたちと文化

古典籍・近代文献の見方・楽しみ方

写本、
版本、
明治期に
作られた書籍

日本の古い本には色々な形があり、それを構成する部品、作られた時代も様式も様々である。これらの「本」には何が書かれているのか。そもそも「本」のどこをどのように見ればいいのか。くずし字はどう読めばいい？ 捺されているハンコは何を意味しているのか？ 表紙の模様にはどのような意味が隠されているのか？ 一流の研究者たちが丁寧にわかりやすく解説する。多数の図版とともに楽しむ、充実の古典籍・近代文献の入門書！

Contents

- 刊行に寄せて……渡部泰明
はじめに——「本」を学び楽しむために……海野圭介
- 講義 1 ◎ はじめての古典籍……神作研一
「コラム」亀甲パレン「」のこと……神作研一
- 講義 2 ◎ くずし字——昔の人の文字をどう読むか……桑汐里
- 講義 3 ◎ 写本——奥書・識語から本の来歴と素性を知る……海野圭介
「コラム」書物を切る——古筆切という資料……海野圭介
- 講義 4 ◎ 版本——刊記・奥付から印刷文化を探る……木越俊介
「コラム」国書データベースで複数の画像を比較するには……木越俊介
「コラム」『彩画職人部類』再刻』を検証する……木越俊介
- 講義 5 ◎ 装訂と料紙——本の「かたち」から何を読みとるか……落合博志
「コラム」写本を模倣する古活字版……落合博志
「コラム」表紙は装訂です——付新出化紙綴じ二種……神作研一
- 講義 6 ◎ 表紙文様——本を彩る意匠の世界……齋藤真麻理
「コラム」表紙ウラの楽しみ……齋藤真麻理
「コラム」文様と奈良絵本……齋藤真麻理
- 講義 7 ◎ 印——本に捺されたハンコは何を伝えているのか……松永瑠成
「コラム」史料としての貸本印……松永瑠成
「コラム」印主の調べ方……松永瑠成
- 講義 8 ◎ 江戸の出版文化——古活字版を中心に……入口敦志
「コラム」日本出版史の謎……入口敦志
- 講義 9 ◎ 近代本の世界——近代資料の作り方・（残し方・読み方）……多田蔵人
「コラム」ナポレオンの妻の物語……多田蔵人
「コラム」普通の本の大切さ……多田蔵人
「コラム」蔵書形成の意義——国文研のコレクション紹介を兼ねて……木越俊介・齋藤真麻理
- 参考文献リスト——工具書を中心に
国文研を利用しよう



書名	冊数
本 かたちと文化 古典籍・近代文献の見方・楽しみ方 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 〈編〉	冊数
ご送付先ご住所（通信欄）	冊

定価 3,080 円・本体2,800円
A5判並製カバー装・288頁
2024年2月刊行
ISBN978-4-585-30011-3 C1000

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 http://bensei.jp/

FAX ●03-5215-9025

日本古文書学会編集
古文書研究
第97号

2024年6月

定価 4,180円(税込)・本体 3,800円
B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁
ISBN978-4-585-32407-2 C3321
2024年6月刊行歴史学をはじめ、諸分野における研究の基盤をなす古文書学。
その最前線を伝える学術雑誌。年2回刊行。

目次

カラー口絵

論文

- 室町期東寺奉行の就任経緯と役割拡大…………… 北山航
妙心寺派地方寺院に見る戦国期禅僧ネットワークの実態
——飯田市興禅寺蔵「南豊大和尚遷化之際書簡集」の分析を通じて…………… 岩永紘和
永祿・元龜年間の能島村上氏と毛利氏——備讃瀬戸・児島に注目して…………… 大上幹広

特別寄稿

- 中世古文書学の再検討(前編)——アーカイブズ学としての中世古文書学…………… 上島有

史料紹介

- 本覚院文書にみる戦国期の畠山・大友間交渉…………… 川口成人・窪田頌

追悼文

- 新川登亀男氏を偲ぶ…………… 川尻秋生
林讓氏を悼む…………… 近藤成一

随筆

- 秀吉の大高檀紙使用開始時期について…………… 村井祐樹

書評と紹介

- 島根県古代文化センター編『出雲国風土記 校訂・注釈編』『出雲国風土記 地図・写本編』…………… 橋本雅之
栗林文夫著『中世南九州の寺社と地域社会』…………… 小川弘和
小谷量子著『上杉本洛中洛外図屏風の研究 桑実寺縁起絵巻と共に』…………… 木下昌規
佐藤孝之・三村昌司編『近世・近現代文書の保存・管理の歴史』…………… 岩立将史

日本古文書学会第55回学術大会要旨

彙報

口絵解説

- 春日社季頭銭借状案 一通…………… 青木貴史

英文レジュメ

書名	部数
古文書研究 第97号 日本古文書学会 [編]	定価4,180円(税込)・本体3,800円 B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁 2024年6月刊行 ISBN978-4-585-32407-2 C3321
ご送付先ご住所(通信欄)	部

歴史叙述としての 平家物語

定価8,800円・本体8,000円
A5判上製カバー装・288頁
2024年2月刊行
ISBN978-4-585-39037-4 C3095

成立以来、さまざまなかたちで広く流布し、社会への大きな効力を持ちつづけてきた『平家物語』。現代にいたるまで、源平の時代にたいするイメージや歴史認識に小さからぬ影響を与え続けている。この物語には、史実とは距離のある叙述がところどころに散りばめられている。

史実とは異なる「歴史」を語る『平家物語』の歴史叙述とは、
いったいかなるものなのか。何を語るべく成立したものなのか――

平家嫡流たる小松家にかんする描写のありかたや東大寺の勧進聖、俊乗房重源をめぐる中世の言説などを、これまであまり注目されてこなかった事柄や資料などへ着目し、多角的に検討。

あらたな角度から史実と虚構を含みこんだ『平家物語』の歴史叙述の相貌を照射する。

目次

序

- 第一部 小松家の物語
第一章 土佐守宗実説話成立考
第二章 平重盛の法名をめぐる
第三章 「小松家」のあり方と宗実説話

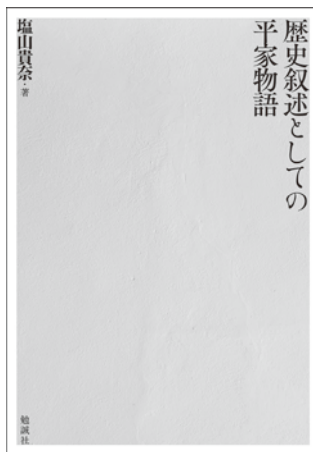
- 第二部 物語の形成と展開
第一章 頼朝助命譚にみる重盛と頼朝
第二章 「重衡被斬」の成立背景
第三章 興福寺大乘院尋尊の記す源平の時代

- 第三部 中世の言説にみる重源
第一章 重源の入宋をめぐる言説とその展開
第二章 重源像の変遷――「匪直也人」「南無阿弥陀仏」
第三章 重源と東大寺・醍醐寺・高野山の語られ方
第四章 阿波守宗親説話の形成と人物
第五章 『平家物語』の重源

結

あとがき・初出一覧・索引

塩山貴奈・著
一九八八年東京都生まれ。学習院大学大学院人文科学研究所博士後期課程修了。博士（日本語日本文学）。現在、愛知淑徳大学文学部助教。専門は中世文学。論文に「平重盛の法名をめぐる」（『国語国文』第八巻第一号、京都大学文学部国語学国文学研究室、二〇一九年十一月）、「重源の入宋をめぐる言説とその展開」（『国語と国文学』第九九巻第三号、東京大学国語国文学会、二〇二二年三月）などがある。



書名	冊数
歴史叙述としての 平家物語 塩山貴奈〈著〉	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価8,800円・本体8,000円
A5判上製カバー装・288頁
2024年2月刊行
ISBN978-4-585-39037-4 C3095

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

増補改訂版

本書は二〇一五年一〇月に刊行した『室町時代の将軍家と天皇家』の増補改訂版です。

室町時代の 将軍家と天皇家



定価 9,900円・本体9,000円
A5判並製カバー装・560頁
2024年5月刊行
ISBN978-4-585-32047-0 C3021

室町期における
中央政体の構造を捉え直し、
新たな時代像を描く

室町期の公武関係はいかにして成立、展開し、終焉にいたったのか。尊氏から義政までの足利家歴代将軍たちの朝廷儀礼における行動の分析。将軍家が「公家化」し、自らを北朝天皇家の「輔弼役(執事)」と位置づけ、強力な一体化を築き上げた実態を明らかにする。また、将軍家が天皇家をサポートし、その権威を保障する体制が室町時代の将軍家と天皇家の基本構造であることを提示する。武家の長(足利将軍家家長)と公家の長(北朝天皇家)との関係の展開と基本構造を検討した画期的成果。

公武関係をはじめ
義満・義教期における
足利将軍家の実態の具体像および、
足利家と天皇家の一体化の過程を
再検討した補論六本を新たに加え、
最新の研究成果をふまえて
加筆・修正した待望の増補改訂版。



石原比伊呂

〈著〉

(いしはら・ひいろ) 一九七六年六月一四日生まれ。聖心女子大学現代教養学部准教授。日本中世史(中世後期公武関係論)専攻。主な著書に『室町時代の将軍家と天皇家』(勉誠出版二〇一五年)、『足利将軍と室町幕府』時代が求めたリーダー像(戎光祥選書ソレイユ、戎光祥出版、二〇一八年)、『北朝の天皇』(室町幕府に翻弄された皇統の実像)(中公新書、二〇二〇年)、編著に『戦国・室町天皇列伝』(光明天皇)戎光祥出版、二〇二〇年)がある。

序章 研究史の整理と本書の視角

第一部 南北朝期の足利将軍家と北朝天皇家

第一章 足利尊氏・直義兄弟と北朝天皇家

第二章 義詮期における足利将軍家の変質

第三章 足利義満の対朝廷政策——「王権篡奪計画説」の再検討

第二部 室町幕府最盛期の足利将軍家と北朝天皇家

第四章 准摂関家としての足利将軍家——義持と大嘗会との関わりから

第五章 足利義持と後小松「王家」

補論一 「大嘗会仮名記」の作者に関する覚え書き

補論二 義満生前の足利義持

第六章 足利義教と義満・義持——朝廷行事における行動の分析から

第七章 足利義教と北朝天皇家

補論三 将軍空位期の室町幕府と公家社会——義円と「条々」

補論四 足利義教の初政

補論五 足利将軍家の規範先例——「義満型」と「義持型」なる二類型

第三部 将軍・天皇関係の本質と帰結

第八章 室町殿行幸に見る足利義教の位置づけ

第九章 貢馬御覧に見る室町時代の公武関係

第十章 義政期の将軍家と天皇家

終章 室町期公武関係の展開と構造——本書の結論

補論六 足利家と天皇家の一体化は、どのように進化したのか？

あとがき・増補改訂版あとがき・初出一覧・索引

書名

〔増補改訂版〕
室町時代の将軍家と天皇家
石原比伊呂〈著〉

冊数

定価 9,900円・本体9,000円
A5判並製カバー装・552頁
2024年5月刊行
ISBN978-4-585-32047-0 C9000

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

江田郁夫

編

(えだ・いくお) 宇都宮短期大学人間福祉学科教授。専門は日本中世史。主な著書に『下野の中世を旅する』(随想舎、二〇〇九年)、『中世東国の街道と武士団』(岩田書院、二〇一〇年)、『戦国大名宇都宮氏と家中』(岩田書院、二〇一四年)などがある。

秀吉の天下統一

奥羽再仕置

定説を問い直す

天正一八年(一五九〇)、豊臣秀吉は関東の北条氏を滅ぼし、東北の伊達氏を服属させ、全国統一を成し遂げた——

高校教科書に記載される人口に膾炙した定説であるが、本当にこの時点で秀吉の天下統一は完成したのであるのか。

関東・東北地方への戦後処理(宇都宮仕置・会津仕置)、そしてその後勃発した

各地の一揆への対応(奥羽再仕置)の波乱に満ちた実情を、対象となった各地域それぞれの視点から仔細に描きだすことで、秀吉の天下統一の道程を改めて問い直す画期的成果。

序 豊臣秀吉の天下統一：江田郁夫

第一部 宇都宮・会津仕置

豊臣秀吉の宇都宮仕置：江田郁夫

豊臣秀吉の会津仕置：高橋充

COLUMN・奥羽仕置と白河：内野豊大

宇都宮・会津仕置における岩付：青木文彦

第二部 陸奥の再仕置

葛西・大崎一揆と葛西晴信：泉田邦彦

COLUMN・伊達政宗と奥羽再仕置：佐々木徹

COLUMN・石巻市須江糠塚に残る葛西・大崎一揆の史跡・伝承

——いわゆる「深谷の役」について：泉田邦彦

奥羽再仕置と葛西一族——江刺重恒と江刺「郡」の動向から：高橋和孝

COLUMN・高野長英の先祖高野佐渡守

——ある葛西旧臣をめぐる：高橋和孝

文禄・寛永期の葛西氏旧臣と旧領——奥羽再仕置のその後：泉田邦彦

南部家における奥羽仕置・再仕置と浅野家の縁：熊谷博史

南部一族にとっての再仕置：滝尻侑貴

COLUMN・仕置後の城破却——八戸根城の事例から：船場昌子

「九戸一揆」再考：熊谷隆次

第三部 出羽の再仕置

上杉景勝と出羽の仕置：阿部哲人

南出羽の仕置前夜——出羽国の領主層と豊臣政権：菅原義勝

奥羽仕置と色部氏伝来文書：前嶋敏

COLUMN・上杉景勝書状——展示はつらいよ：大喜直彦

付録

奥羽再仕置関連年表

定価 3,520円・本体3,200円
A5判並製カバー装・288頁
2024年6月刊行
ISBN978-4-585-32540-6 C1321
アジア遊学No.294

書名	冊数
秀吉の天下統一 奥羽再仕置 江田郁夫(編)	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

都市鎌倉の展開と 鶴岡八幡宮の社人集団

佐藤博信 著

さとうひろのぶ——千葉大学名誉教授。専門は中世東国史。主な著書に『古河公方足利氏の研究』(校倉書房、一九八九年)、『中世東国日蓮宗寺院の研究』(東京大学出版会、二〇〇三年)、『中世東国足利・北条氏の研究』(岩田書院、二〇〇六年)、『中世東国政治史論』(稿書房、二〇〇六年)、『中世東国の権力と構造』(校倉書房、二〇一三年)、『中世東国日蓮宗寺院史論』(稿書房、二〇二二年)、『中世東国日蓮宗寺院の地域的展開』(勉誠出版、二〇二二年)などがある。

神仏習合時代の鎌倉の鶴岡八幡宮は、別当(社家)・供僧(院家)・小別当・神主・社人によって構成される寺院であった。なかでも、社僧・伶人・巫女・神官・大工棟梁などそれぞれの専門職能(家職)をもって奉仕した社人たちは、八幡宮の聖と俗の境界領域をまたぐ場で公私に及び活動し、長く一つの独自の世界を作り出して来た。彼らの豊かな歴史と伝統は、鎌倉期だけでなく江戸期に至るまで存在した。各地・各分野に残された断片的史料から、社人たちの公私にわたる歴史的役割を具体化に明らかにし、彼らを鶴岡八幡宮のみならず都市鎌倉を下から支えた存在として改めて注目することで新たな鎌倉史像を打ち立てる。

【目次】

カラー口絵
はじめに／凡例

第一部 鎌倉・八幡宮史のなかの社人

- 第一章 「新編相模国風土記稿」などにみる八乙女・神楽男・伶人たち
第二章 八乙女・神楽男・伶人たちの由緒・来歴について

第二部 中世後期における社人の活動

- 第一章 南北朝・室町期の八乙女・神楽男・伶人たち
——「香蔵院弥祐記録」を中心に
第二章 戦国期の八乙女・神楽男・伶人たち——「快元僧都記」を中心に
第三章 「小田原衆所領役帳」にみる八幡宮領と社人たち

第三部 近世における社人の活動

- 第一章 江戸幕府の成立と社人たち——法度の世界へ
第二章 寛永十七年付八幡宮領社人分名寄帳の世界——社人四十七名の実態
第三章 八幡宮と極楽寺長吏について——放生会・犬神人・鶴岡丹塗役
第四章 八乙女・神楽男・伶人たちの「御仕役」について——紀行文にみる世界
第五章 社人の「内業」について——旅宿・絵図・名所記刊行
第六章 八乙女大石家の本陣化とその背景について

第四部 雪の下の世界と社人・非社人の活動

- 第一章 八幡宮門前の旅宿について——文政四年段階の状況
第二章 八幡宮西門周辺の世界Ⅰ——社人たち
第三章 八幡宮西門周辺の世界Ⅱ——非社人たち
第四章 八幡宮西門周辺の世界Ⅲ——猿茶屋と岡崎氏・川瀬氏
第五章 八幡宮西門周辺の世界Ⅳ——坂・峠・境

第五部 史跡都市鎌倉の展開と社人・非社人の活動

- 第一章 中世鎌倉の旅宿の様相——戦国期を中心に
第二章 鎌倉絵図・鎌倉名所記の刊行Ⅰ——社人を中心に
第三章 鎌倉絵図・鎌倉名所記の刊行Ⅱ——非社人を中心に
第四章 史跡都市化と八幡宮Ⅰ——享保年代を中心に
第五章 史跡都市化と八幡宮Ⅱ——天保・弘化年代を中心に
第六章 史跡都市鎌倉と案内人——旅宿・茶屋・老若男女

第六部 社人の多面的な活動と軌跡

- 第一章 社人の八幡宮領目代化について——社人の政治参加をめぐる
第二章 供僧・神主・社人の立ち位置について——宝蔵・宝物をめぐる
第三章 社人内部の問題について——「仲間」をめぐる
第四章 社人と非社人の融合について——婚姻関係をめぐって
第五章 社人の権威志向について——戒名・由緒・装束をめぐる
第六章 社人の文化的活動について——俳諧・史跡顕彰をめぐる
第七章 文久二年四月吉日付八幡宮灯籠にみる社人たち——近代への夜明け

おわりに
あとがき／参考事項

予価 八、八〇〇円(税込)

[本体価格八、〇〇〇円]

A5判上製・本文二六四頁前後+カラー口絵二頁

二〇二四年八月刊行予定

ISBN978-4-585-32050-0 C3021

書名	部数
都市鎌倉の展開と鶴岡八幡宮の社人集団 佐藤博信 [著]	部
予価 8,800円(税込) [本体価格8,000円] A5判上製・本文264頁前後+カラー口絵2頁 ISBN 978-4-585-32050-0 C3021 2024年8月刊行予定	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

日本近世史入門

ようこそ研究の世界へ！

現代を生きる私たちから少し遠いが、遠すぎない時代——近世。

近世の人々の息遣いを伝える史料はそこかしこに残されており、幕藩権力・朝廷から民衆までの様々な視点、政治・経済・対外関係・宗教・思想・ジェンダー・環境といった様々な関心からアプローチすることが可能である。

新たな出会いの宝庫である日本近世史（織豊期・江戸時代）の魅力伝えるために、各研究テーマの来歴や現状のみならず、論文執筆のノウハウ、研究上の暗黙知、さらには秘伝(?)までを余すところなく紹介。

残された史料と対話し、時代をこえて多様な生き方や考え方に向き合うための方法論を伝授する。

近世への扉を開くカギは

ここに用意されている！

I 近世史への招待

近世史研究を始め——吉村雅美

コラム◆日本近世史を社会に活かすには——小田真裕

II 近世史の論点

時代区分論◆「近世」という言葉をめぐってどんな議論が繰り広げられてきたのか——清水光明

織豊政権論◆国家と社会の統合——谷徹也

幕藩制の確立◆近世前期の政治史を考える——三宅正浩

幕府機構論◆江戸幕府のしくみと政治のあり方を考える——小倉宗

幕藩制改革◆近世の政治・社会を読み解く——小関悠二郎

幕藩制の展開◆近世後期の政治史を考える——山本英貴

近世の天皇・朝廷◆近世日本のなかでの位置づけ——村和明

対外関係◆近世日本の「内」と「外」——吉村雅美・酒井雅代・木土博成

身分制社会論◆現代とは異なる社会をとらえる——牧原成征

コラム◆近世史を学ぶことの現代的意味——多和田雅保

在地社会◆地域の歴史から広がる論点——小松賢司

コラム◆地域史の研究課題を深めるために——多和田雅保

都市社会◆近世における都市のプレゼンス——多和田雅保

商人・交通・産業◆資本主義とは異なる経済社会の姿——牧原成征・村和明・多和田雅保

貨幣・金融◆お金のやりとりに見る近世社会の特質——高槻泰郎

朝幕財政論◆「お金」から考える幕府と天皇・朝廷——佐藤雄介

藩財政論◆多様な藩財政像を描き出す——伊藤昭弘

宗教と社会◆近世人と宗教の関係を体系的に理解する——上野大輔

生活と文化◆今と自分を見つめ直したいあなたに——小田真裕

思想史◆日本史にとつての江戸時代の思想——三ツ松誠

幕末・維新◆広い視野で明治維新をとらえる——後藤敦史

コラム◆世界に開かれた日本史学へ——彭浩

慶應義塾大学文学部准教授
上野大輔
東京大学グローバル地域研究機構
特任研究員
清水光明
佐賀大学
地域学歴史文化研究センター准教授
三ツ松誠
日本女子大学文学部准教授
吉村雅美

〈編〉

定価4,180円・本体3,800円
A5判並製カバー装・432頁
2024年2月刊行
ISBN978-4-585-32034-0 C0021

書名	冊数
日本近世史入門 ようこそ研究の世界へ！ 上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美(編)	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

近世長崎渡来人文運史

言語接触と文化交流の諸相

近世日本において、東アジア各地より渡来した異国人たちは、さまざまな分野において多大な影響を与えた。通事(通訳)となった者、詩を通し日本の文人たちとかかわった者、政治的に活躍した者…。異国人たちはどのように日本で活躍し、どのような思想、文学作品を遺したのか。彼らがたどり着いた「長崎」という場を軸に、様々な資史料を検証し、文化交流の諸相を明らかにする。

目次

前言

- 第一部 海峡渡航者と日本
- 一 藤原惺窩筆談考——「達徳」への道
 - 二 朝鮮通信使と石川丈山——「日東の李白」考
 - 三 〈翻刻〉石山丈山自筆原翰「與朝鮮國權學士菊軒筆談書」
 - 四 雨森芳洲小考——唐話の師國思靖
 - 五 雨森芳洲の語学書

- 第二部 明清交代と長崎
- 一 隠元——「万国の春」を心に
 - 二 鐵心道胖の文事——「聖福八景」詩原卷とその時代
 - 三 牛込忠左衛門の詩宴——「長崎八景」
 - 四 「彦山勝景詩集」の詩人・文人——八景・十二景の表象

- 第三部 渡来人の系譜
- 一 近世渡来人の系譜——「訳司統譜」から
 - 二 唐通事・林道栄の生活と文事——雅俗訳通
 - 三 唐通事・劉宣義の生活と文事
 - 四 都へ出た唐通事——劉國南
 - 五 東京通詞魏氏の家系——魏五左衛門龍山を中心に
 - 六 唐話会と江戸文学
 - 七 「唐通事由来書考」

- 第四部 長崎聖堂とその周辺
- 一 向井元升事略——入洛前後
 - 二 向井元升著述考——東西文化の接触
 - 三 盧氏の系譜
 - 四 高玄岱の文事——宝永・正徳期
 - 五 新出・高玄岱『鐘山遊記』について
 - 六 高玄岱自筆卷子本「心田菴記」について
 - 七 大潮元皓の生涯
 - 八 「瓊浦遊草」の世界——大潮元皓の長崎滞在
 - 九 高階陽谷——その風貌と逸詩
- あとがき・初出一覧

若木太一・著



一九四二年生まれ。長崎大学名誉教授。著書に『長崎聖堂祭酒日記』(共編著、関西大学東西学術研究所、二〇一〇年)、『新長崎市史』第二巻近世編(共著、長崎市、二〇一二年)、『長崎・東西文化交流史の舞臺』(共編著、勉誠出版、二〇一三年)、『長崎先民伝注解』(近世長崎の文苑と学芸)(共編著、勉誠出版、二〇一六年)などがある。

定価 14,300円・本体13,000円
A5判上製カバー装・704頁
2024年5月刊行
ISBN978-4-585-32044-9 C3021



書名	著者	冊数
近世長崎渡来人文運史 言語接触と文化交流の諸相	若木太一(著)	冊
定価 14,300円・本体13,000円 A5判上製カバー装・704頁予定 2024年5月刊行 ISBN978-4-585-32044-9 C3021		
ご送付先ご住所(通信欄)		

清水詩織 [著]

近世後期の
海防と社会変容

近世の海防は「国防」か？

近世後期、相次ぐ異国船の来航に対して、人々はどうに対応したのか。

日本各地で構築された海防(海岸防備)体制に焦点を当て、藩と地域社会の両面からその実態を明らかにする。

幕府に対する軍役としての海防と個別領主の領地を自衛するための自領海防との違いを考察するとともに、

人びとがどのような意識で海防に従事し、既存の社会秩序がどのように変容していったのかを

鮮やかに描き出す。

幕藩研究に一石を投じる意欲作。

「執筆者紹介」

清水詩織(しみず・しおり)一九八五年千葉県松戸市生まれ。

早稲田大学教育学部卒業。早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。現在、早稲田大学教育・総合科学学術院 東洋英和女学院大学人間科学部非常勤講師。博士(学術)。専門は日本近世史。

主な著書・論文に、『深化する歴史学』(共著、大月書店、二〇二四年)、『海防史研究と関東地域史研究』(関東近世史研究) 91号(二〇二三年)、(天保)嘉永期における譜代藩の海防——「江戸湾海防」と自領海防——(「関東近世史研究」84号、二〇一九年)などがある。

「目次」

まえがき
序章

第一部 「江戸湾海防」体制の成立

- 第一章 「江戸湾海防」体制の成立と関東譜代藩
第二章 岩槻藩房総分領の海防
第三章 房総諸藩の異国船情報ネットワークと海防体制
第四章 「江戸湾海防」と江戸湾防備担当藩

第二部 海防と地域社会

- 第五章 彦根藩の海防と世田谷領
第六章 九十九里地域における組合村の海防
第七章 海防費用負担と地域
——上総国山辺郡宿村一件を事例に——
補論 ペリー来航の記憶

第三部 海防思想と開国後の海防

- 第八章 水野浜松藩の自領海防体制と海防思想
第九章 安政期における噴火湾の海防と盛岡藩の分領化
終章
あとがき
参考文献一覧／初出一覧／索引

定価 一、一〇〇円(本体一〇〇〇円)

A5判・上製・三九二頁
二〇二四年二月刊行
ISBN978-4-585-32037-1 C3021

書名	部数
近世後期の海防と社会変容	定価 11,000円(本体10,000円) A5判・上製カバー装・392頁 ISBN978-4-585-32037-1 C3021 2024年2月刊行
清水詩織 [著]	部
ご送付先ご住所・氏名(通信欄)	

開かれた鎖国

入り船と出船

片桐一男 著

鎖国と呼ばれた時代にオランダ船が日本に運び込んだもの、日本から運び出したものは何か。

輸入品は、象・ラクダから、更紗・織物・砂糖・ワイン、蘭書・洋紙まで…。

輸出品は、浮世絵・版画・地図から、刀剣・甲冑、日本の桜まで…。

オランダ船の乗船人名簿と積荷目録を紐解き、

入港時に運び込んだ海外情報、出航時に運び出した人・物・情報を明らかにする。

日蘭交流四〇〇年を総括。

はじめに

第一章 オランダ商船はどんな組織のもとに來航したか

- 一 連合東インド会社
- 二 船籍を示す紋章

第二章 オランダ船の検閲・入港手続き

- 一 旧入港手続き
- 二 フェートン号事件
- 三 改革後の入港手続き
- 四 四種の秘密重要書類

第三章 出島のオランダ商館——業務と役割

- 一 日本のオランダ商館
- 二 オランダ商館の所在地・出島
- 三 オランダ商館員と職掌
- 四 業務と役割
- 五 役割——カビタンの江戸参府
- 六 余暇——遊び

第四章 オランダ理解に努めた蘭学家老・鷹見泉石

- 一 鷹見泉石
- 二 『新訳和蘭国全図』
- 三 『愚意摘要』

第五章 「万国旗」を渴望する阿蘭陀通詞

- 一 「お路しや船之儀二付奉伺候書付」
- 二 万国旗が欲しい
- 三 「航海標旗図鑑并和解」

第六章 帰帆のオランダ船——出港手続き

- 一 帰帆(出港)規定
- 二 具体例

附録

- 一 オランダ船の長崎入港から出帆迄
 - 二 杉田玄白と長崎屋——蘭書の販売
 - 三 御制禁物について
 - 四 諸役所壁書
 - 五 ケンベルの描いた「蘭人御覧」の部屋はどこか
- まとめにかえて

【著者紹介】

片桐一男(かたぎり、かずお)
青山学院大学文学部名誉教授。公益財団法人東洋文庫研究員。青山学院大学客員研究員。洋学史研究会会長。専攻は蘭学史・洋学史・日蘭文化交流史。
主な著書に『阿蘭陀通詞の研究(吉川弘文館、角川源義賞)』、『蘭学家老 鷹見泉石の來航を読む』、『蘭学篇(岩波ブックセンター、グズナー賞)』、『知の開拓者 杉田玄白』、『蘭学事始』とその時代『出島遊女と阿蘭陀通詞』、『カビタン 最後の江戸参府と阿蘭陀宿』、『歩く、異文化交流の体現者』(以上、勉誠出版)などがある。

二軒茶屋 景



「二軒茶屋」
(『拾遺都名所図会』より 国立国会図書館蔵)

書名	部数
開かれた鎖国 入り船と出船 片桐一男 [著]	部
予価 8,800円(税込) [本体価格8,000円]	
A5判上製・352頁前後 ISBN 978-4-585-32046-3 C3021 2024年6月刊行予定	
ご送付先ご住所・氏名(通信欄)	

球陽外卷 遺老説伝

きゅうやうがいかん
いろうせつでん

一八世紀中期、琉球の正史として編纂された歴史書である『球陽』。

その外巻である『遺老説伝』には、首里王府が全土に指令を下して、各地から収集・報告させた民間説話が漢文体で収録されている。本書は、その全文の校訂文および書き下し文を収録。本文には底本と諸本との字句の異同を示す校注を付し、書き下し文には、関連する事柄を示すために詳細な注を施す。

琉球における説話文学研究の基本資料であるばかりではなく、地域の祭祀・伝承・芸能、自然と人文との関係、地名の漢字表記を巡る言語的理解など、多様な視点により、人類学・民俗学や歴史学・地理学など、様々な学問領域に重要な意義と必要性を持つ一冊。

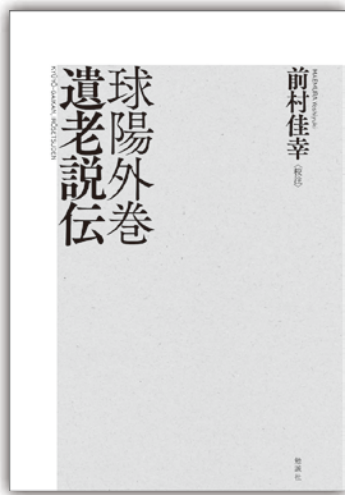
目次

沖縄県位置図
前言
凡例

球陽 外巻一 遺老説傳
球陽 外巻二 遺老説傳
球陽 外巻三 遺老説傳
球陽 外附巻 遺老説傳

附録1 尚家本と伊波普猷旧蔵書の来歴
附録2 琉球・沖縄における行政区画の変遷——間切から市町村へ

索引



前村佳幸〈校注〉

一九七一年生まれ。琉球大学教育学部准教授。博士(歴史学)。専門は中国史/琉球史。論文に「康熙22年刊『弔陽県志』における風俗論」「高妻」と「瀧女」(『琉球大学教育学部紀要』八六集、二〇一五年一月)、「琉球王朝末期の廟議——褒廟と太廟の神主配置」(『沖縄文化研究』四七号、二〇二〇年三月)、「蔡温による修史と第二尚氏の系図・廟制」(『沖縄文化研究』五〇号、二〇二三年三月)などがある。

定価8,800円・本体8,000円
A5判上製カバー装・264頁
2024年4月刊行
ISBN978-4-585-32048-7 C3021

書名	冊数
球陽外巻 遺老説伝 前村佳幸〈校注〉	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価8,800円・本体8,000円
A5判上製カバー装・264頁
2024年4月刊行
ISBN978-4-585-32048-7 C3021

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

三井大坂両替店の顧客信用情報

享保一七年から
明治二年まで

三井大坂両替店が近世から明治初期にかけて残した顧客の信用調査の全貌を明らかにする貴重資料！

「目次」

三井家の元祖・三井高利は、江戸呉服店開業ののち、

呉服の仕入れを円滑にするために、

為替・両替・融資業務を担当する両替店の設置を進めた。

江戸を皮切りに、京都・大坂へと版図を広げた両替店成功の背景には、

「果たしてその顧客に融資し、確実に回収できるのかどうか」を

判断するための信用管理システムがあった。

これまで全貌が明らかにされてこなかった、

享保17年(1732)から明治2年(1869)まで

欠年なしで残された三井大坂両替店の信用調査書

(「日用留」「日用帳」「聴合帳」を翻刻し、

参照・検索しやすいようデータベース化して掲載。

調査対象件数は実に3,108件、

複数が連印で借入を希望した場合も多々あり、

それらを含めると調査対象人数は3,825名にも及ぶ。

大商人から借家人に至るまで、大坂両替店の手代が入念に調べた

顧客の提供担保(所有する家屋敷や品物)や

年齢、家族構成、人柄、業種、家計(経営)状態を

知ることができる必備のレファレンスツール。

萬代悠

「編」

(まんだいゆう)一九八七年大阪府堺市生まれ。

二〇一五年関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程文化歴史学専攻日本史学領域単位取得退学。二〇一六年博士(歴史学)関西学院大学。現在、公益財団法人三井文庫研究員。

主要業績に、『近世畿内の豪農経営と藩政』(塙書房、二〇一九年)、『三井大坂両替店 銀行業の先駆け、その技術と挑戦』(中央公論新社、二〇一四年)、『Stabilize the peasant economy: Governance of foreclosure by the shogunate』(with Masaki Nakabayashi) Journal of Policy Modeling, Vol. 40, Issue 2, 2018, pp. 305-327, 48-49。

カラー口絵

目次

刊行にあたって

凡例

信用調査書(「日用留」「日用帳」「聴合帳」)

享保一七年(一七三二)「日用留」(本二四八)

寛保三年(一七四三)「日用帳」(本三五二)

宝暦二年(一七五二)「日用帳」(本二四九)

宝暦八年(一七五八)「日用帳」(本二五〇)

宝暦十一年(一七六六)「日用帳」(本二五一)

安永六年(一七七七)「日用帳」(本二五二)

天明三年(一七八三)「日用帳」(本二五三)

寛政七年(一七九五)「日用帳」(本二五四)

文化九年(一八二二)「日用帳」(本二五五)

文政九年(一八二六)「聴合帳」(本三七八)

弘化三年(一八四六)「聴合帳」(本三七九)

嘉永七年(一八五四)「聴合帳」(本三八〇)

万延元年(一八六〇)「聴合帳」(本三八一)

附録

語句説明・主要手代一覧・参考文献
大坂三郷概略図・絵図

解題

- 信用調査書の史料性格
- 信用調査書の歴史的意義(一) 金融の観点から
- 信用調査書の歴史的意義(二) 社会の観点から
- 信用調査書の歴史的意義(三) 地理経済の観点から
- 信用調査書の歴史的意義(四) 村落の観点から
- 信用調査書の歴史的意義(五) 財政の観点から

索引

定価 一六,五〇〇円(本体一五,〇〇〇円)

B5判・並製・七六八頁

二〇二四年三月刊行

ISBN978-4-585-32042-5 C3021

書名	部数
三井大坂両替店の顧客信用情報 享保一七年から明治二年まで 萬代悠 [編]	部
定価 16,500円(本体 15,000円) B5判・並製・768頁 ISBN978-4-585-32042-5 C3021 2024年3月刊行	
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

湖北省留日学生と 明治日本

王鼎 著

(おうてい、WANG Ding) 一九九〇年生まれ。中国政府の国費留学生として新潟大学大学院現代社会文化研究科に留学。博士(文学)。専攻は日中文化交流史。現在は北京師範大学外国語学院専任講師。主な著作に『日華学堂とその時代——中国人留学生研究の新しい地平』(共著、武威野大学出版社、二〇二二年)、『明治から昭和の中国人日本留学の諸相』(共著、東方書店、二〇二三年)、『佛教・歴史・留学——交流視角下的東亜和日本』(編著、博陽文化出版社、二〇二一年)などがある。

定価 7,700円・本体7,000円
A5判上製カバー装・376頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-32043-2 C3020

知られざる、日中関係史

明治期に日本へ派遣された中国人留学生たちは、どのような目的で来日し、どのような行動をとっていたのか。彼らの活動や日本で学んだ知識・思想は、日中両国間の政治・外交・文化交流にどのような影響を与えたのか。これまで湖北省から大量の学生を日本へ送り出した張之洞の功績については注目されてきたが、

湖北省留日学生の人生とその軌跡については、いまだ歴史の中に埋もれたままである。

本書では、彼らが日本留学に至った経緯から留学中の生活、同郷会の雑誌・教科書の出版や翻訳活動、留学制度と留学生受け入れの実態、さらには軍事系留学生と辛亥革命の関係まで、徹底的に究明。

豊富な史料とフィールドワークに基づき、多角的視座から分析と考察を加え、従来の日中留学生史研究に新たな光を当てた待望の新機軸。
武漢大学・馮天瑜教授推薦！

推薦の辞……馮天瑜
序章

第I部 清末における中国人日本留学の軌跡

第一章 清末における中国人日本留学の歴史

第II部 湖北省留日学生の諸活動

第二章 湖北省留日学生の初期活動について

第三章 留日学生と湖北同郷会

第III部 湖北省留日学生の留学経験とその影響

第四章 湖北省留日学生の活躍と帰国後の進路

第五章 教育・革命・鉄道——黄州府麻城三兄弟の事例研究

第六章 寺尾亨の東斌学堂と留日学生——『向巖家書』を一つの手がかりとして

終章

資料編

解題

資料一 清末湖北留日学生名簿(一八九六—一九二一)

資料二 『湖北学生界』・『漢声』・『旧学』目録

資料三 『湖北学生界』開辦章程

資料四 湖北同郷会章程

資料五 湖北省留日学生の著訳書一覧

資料六 選派陸軍学生分班遊学章程

資料七 陸軍士官学校(第一期、第八期)の湖北留学生および活躍者たち

資料八 駐日清国公使館および在清国日本公使館の外交官一覧表

資料九 清末期の湖北省全域図

資料十 武昌省城の街道図(一九〇九)

あとがき・索引

書名	冊数
湖北省留日学生と明治日本 王鼎(著)	冊
定価 7,700円・本体7,000円 A5判上製カバー装・376頁 2024年3月刊行 ISBN978-4-585-32043-2 C3020	
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

永平廣録大全

えいへいこうろく・たいぜん

『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究
ならびに解題・関連資料集成

道元禅師の演法説示が収録されている『永平廣録』。道元の死後、門下の真摯な従者たちによって編集された『永平廣録』は伝統的な禅の語録の形態をとり、漢文体によって構成されている。本書では、原本『祖山本 永平廣録』（全十巻）の正確な「訓読」と「訳」を提供する。また、その語句に対する「語義注釈」、「出典考証」、各項の解説、さらに語義の詳細にわたる「補注参究」、本書に関連する「基本的原典」等の関連書ならびに関連項目の小論・解題等も収載した決定版。

{ 呈・内容見本 }

詳細情報を掲載した
パンフレットをご用意しております

定価 71,500円(税込)

本体65,000円(+税)

2024年6月刊行

B5判・上製・全八巻(分売不可)・総3548頁

ISBN978-4-585-31017-4 C3015

本書の特徴

- 原文テキストと、その訓読・訳・語義・出典考証・補注参究を収録。
- 原典に忠実な正確な訓読を提供。禅門の慣習を考慮し、古来の訓み・言い回しを記載。漢字は当用漢字・総ルビ・現代仮名遣いとしたり。引用・会話文は「」・「」も併用した。
- 理解を助ける現代語訳を掲載。
- 「語義」では、難解な語句・仏教用語・公案の類を注釈。僧名は、その生卒年代と師資関係を掲載。
- 「出典考証」では、収録された成語の出典を考証。道元が披見しうる妥当性、「永平廣録」本文との総合的な検証から出典を採択した。
- 補注参究では、「語義」に挙げられた項目をより深い考察を加える。
- 最終巻に最終巻には「祖山本 永平廣録」全原典を掲載。欠損字は他のテキストを参照した補った。
- 各項目には通し番号を付し、訓読・訳・語義・出典考証・補注参究などの項目間を参照する際の便を図った。

大谷哲夫

〈編著〉

編著者紹介——一九三九年東京都生まれ。早稲田大学一文同大学院修了。駒澤大学大学院満期退学。曹洞宗僧侶(市ヶ谷長泰寺住職)・仏教学者(専門は禅)。駒澤大学元総長(第二十八代)・駒澤大学元学長(第二十九代)・都留文科大学元理事長・東北福祉大学前学長。主要著書に、『道元 永平廣録 上堂』選(講談社学術文庫、二〇〇五年)、『道元 宝慶記』(講談社学術文庫、二〇一七年)など多数。

書名

永平廣録大全 大谷哲夫〈編著〉

『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究
ならびに解題・関連資料集成

冊数

定価 71,500円(税込)

本体65,000円(+税)

2024年6月刊行

B5判・上製・全八巻(分売不可)・総3548頁

ISBN978-4-585-31017-4 C3015

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

器と信仰

東アジアの舍利莊嚴をめぐる
美術史・考古学からのアプローチ

釈迦の遺骨として、アジア各地で篤い信仰を集める「舍利」。その容れ物である舍利容器は、特定の用途を持つ器形や、別の文脈で意味を成した図像が複合的に組み合わされ、舍利を莊嚴する器として仕立て上げられた。それゆえ、「器のかたち」——どこで、どのような器の形状・素材・図様が採用されてきたのかという問題は、「舍利の意味」——舍利が各地域の社会においてどのような存在として受容されたのかということと相関関係を有している。十数年にわたり行われた中国・日本・韓国・ベトナムの現地調査を礎とした、舍利及びその莊嚴に関する最新の知見を三部十四本の論考により提示。また、資料編では、現地調査にて得られた作例の基礎データ、また、舍利莊嚴における大きな画期である仁寿舍利塔の網羅的調査記録を提示、貴重な画像資料も収載した。美術史学界・考古学界のみならず、日本及び東洋の文化史に関わる領域に広く寄与する画期的成果。

カラー口絵
はじめに……加島勝

◎研究編

第1部

●中国・シルクロードにおける舍利容器の形式変遷について……加島勝●中国における棺形舍利容器とそのモデル……岡林孝作

第2部

●北魏～隋唐時代の舍利埋納方式——地宮・天宮の変遷と舍利容器の組合せを中心に……冉万里

第3部

●隋代における舍利埋納制度について……冉万里●仁寿舍利塔の思想と舍利容器……長岡龍作●神徳寺石函の図様表現と特色……泉武夫

◎資料編

●仁寿元年の第一次仁寿舍利塔に関する資料集成……大島幸代

◎資料集

●資料集
岐州鳳泉寺／雍州仙遊寺／嵩州嵩岳寺／秦州岱岳寺／華州思賢寺／衡州衡岳寺／定州恒岳寺／鄭州法講寺／牟州巨神山寺
吳州会稽山寺／同州大興國寺蒲州栖巖寺蘇州虎丘山寺／涇州大興國寺／襄州大興國寺／襄州大興國寺／襄州大興國寺／襄州大興國寺
揚州西寺／鄭州定覺寺／青州勝福寺／亳州開寂寺／汝州興世寺／瓜州崇教寺／番州靈鷲山寺／桂州綠化寺／交州禪聚寺／蔣州栖霞寺
●崇福寺塔心礎納置品の材質調査について……加島勝

◎拓本・碑銘

●拓本「神徳寺石函線刻」／山東青州勝福寺「碑銘」重修広福寺記／瑞応寺再葬仏舍利碑／結九品往生社碑
●海外現地調査日誌 2001～2019……岡林孝作・加島勝

あとがき……加島勝

加島勝

（編）

（かしま・まさる）一九五六年生まれ。大正大学名誉教授・特選教授、東京国立博物館名誉館員。博士（文学）。専門は仏教工芸史。著書に『柄香炉と水瓶』（日本の美術）五四〇号、ぎょうせい、二〇一一年、『日中古代仏教工芸史研究』（雄山閣、二〇一六年）、『平泉の文化史3 中尊寺の仏教工芸彫刻・絵画・工芸』（共著、吉川弘文館、二〇二一年）などがある。

定価 16,500円・本体15,000円
B5判上製カバー装・460頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-32041-8 C3020

書名	冊数
器と信仰 加島勝（編） 東アジアの舍利莊嚴をめぐる 美術史・考古学からのアプローチ	冊
定価 16,500円・本体15,000円 B5判上製カバー装・460頁 2024年3月刊行 ISBN978-4-585-32041-8 C3020	
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

〈編者〉
外村中
稲本泰生

「見える」ものや 「見えない」ものを あらわす

東アジアの 思想・ 文物・ 藝術

本書の構成

- 第一部 祭祀・墓葬と「見える」もの「見えない」もの
第二部 尊像の誕生
第三部 仏菩薩の姿と「時間」「過程」の表象
第四部 仏身と世界観——盧舎那仏の形と意味
第五部 音を「見せる」／姿を「留める」
第六部 仏菩薩の顕現する場
第七部 「見えない」ものを「とらえる」——付会と図解
第八部 諸教交渉と「見える」もの「見えない」もの
第九部 「見える」「見えない」現象の主体／連鎖するイメージ

「見える／見えない」を論じること、それらを描き出すこと——
宗教や思想、藝術などの人間の営みは、
このことが大変重要かつ普遍的なテーマであることを示している。
東アジアの文物や藝術を解釈する上での共通の基盤の形成をめざすために、
「見えるもの／見えないもの」にまつわる理論や事象について、
従来分野の枠組をこえて国際的にかつ学際的に探求。
宗教・思想をはじめ、考古遺物から彫刻絵画、
建築庭園、芸能音楽などにまで及ぶ様々な論点を、
最先端の研究者二十四名の視角により提示する画期的論集。

執筆者一覧

古勝隆一 向井佑介
森下章司 内記理
魏藝 折山桂子
田中健一 中西俊英
船山徹 高橋早紀子
大平理紗 黄盼
倉本尚徳 瀧朝子
増記隆介 塚本明日香
横手裕 福谷彬
西谷功 重田みち
清水健 吳孟晋

定価 15,400円・本体14,000円
B5判上製カバー装・744頁(+口絵2頁)
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-37012-3 C3071

書名	冊数
「見える」ものや「見えない」ものをあらわす 東アジアの思想・文物・藝術 外村中・稲本泰生(編)	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

泰山諸神の信仰の展開

東岳大帝から碧霞元君へ

古来、道教の聖地として崇められ、
中国の文化・伝統に
多大な影響を与えてきた泰山と、その信仰――。

東岳大帝・碧霞元君などの神々の起源・由来・伝承を整理し、それらの民俗信仰の様相と変遷を考察。
また先行調査と実地調査から、泰山諸神の信仰対象の移り変わりや民衆の認識を検討し、明代以降
に隆盛する碧霞元君信仰について泰山・北京・大石橋市における廟会の事例を踏まえ、往時と現在の
信仰の比較、廟会復興の過程を紹介。参考資料として、現代における廟会の図版を多数掲載。

泰山諸神の信仰状況を歴史的に検討し、広い視点から泰山信仰ひいては
中国の民間信仰の一端を明らかにする画期的成果！

第一章

泰山信仰の変遷

――東岳大帝から碧霞元君へ――

- 一、泰山諸神
- (一)泰山と東岳大帝
- (二)泰山と蒿里山
- (三)泰山と岱廟
- 二、炳靈公信仰
- (一)泰山三郎と炳靈公
- (二)通俗文学にみられる炳靈公
- (三)『封神演義』にみられる炳靈公
- 三、碧霞元君信仰
- (一)碧霞元君の起源と伝承
- (二)『醒世姻縁伝』にみられる碧霞元君

第二章

北京の碧霞元君信仰

――北京と碧霞元君――

- (一)北京の碧霞元君廟会調査
- (二)妙峰山と願頭剛の調査
- (三)香道
- (四)文会と武会
- (五)鬻山
- (六)天台山
- (七)五頂
- (八)現在の妙峰山娘娘廟会
- 二、北京の廟会の現状
- (一)廟会の復興と発展
- (二)廟会の形式
- (三)廟会の現状

第三章

満州の碧霞元君信仰

――満州と碧霞元君――

- (一)中国東北地域の碧霞元君信仰
- (二)迷鎮山娘娘廟会
- (三)迷鎮山と日本人調査
- (四)『封神演義』における碧霞元君
- (五)迷鎮山娘娘廟会の現状
- (六)鳳凰山と北山の娘娘廟会

結語

- 参考文献
- 1 妙峰山
 - 2 Y 鬻山
 - 3 五頂
 - 4 岱廟
 - 5 泰山
 - 6 北京春節廟会
 - 7 迷鎮山
- 後記

定価 8,800円・本体8,000円
A5判上製カバー装・304頁
2024年1月刊行
ISBN978-4-585-31018-1 C3014

二ノ宮聡 著

(このみや・さとし)一九八二年生まれ。北陸大学国際コミュニケーション学部講師。専門は中国の民間信仰。主な業績に、翻訳『全訳 封神演義』共訳 勉誠社、二〇一七～一八全四冊、論文に『宝巻からみる明代後期から清代初期の碧霞元君信仰』(東方宗教)二三八号、二〇二二年、「北京の碧霞元君廟会―五頂と妙峰山とY鬻山(関西大学中国文学会、二〇二二年)」、「北京の廟会の復興と現状―二〇二一・二〇二二年春節廟会を中心に―(関西大学中国文学会、二〇二四年)などがある。

書名	冊数
泰山諸神の信仰の展開 東岳大帝から碧霞元君へ 二ノ宮聡 著	冊
定価 8,800円・本体8,000円 A5判上製カバー装・304頁 2024年1月刊行 ISBN978-4-585-31018-1 C3014	
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

日本人は漢文を どう読んだか 直読から訓読へ

湯沢質幸 [著]

日本において古代から現在に至るまで
延々と読み継がれてきた漢文。
その読み方には
中国から渡来した中国音で読む〈直読〉、
そして、平安時代に生まれ、
漢文読解の方法としてその地位を確立した〈訓読〉の
二種類が存在する。
しかし、古代から現代までの間に〈直読〉は消え、
日本語で読む〈訓読〉がもっぱら使われるようになった。
なぜ、日本では〈訓読〉優位の状況が生じたのか――
漢文を取り巻く環境を一つ一つ分析することを通して、
〈直読〉から〈訓読〉への変化を追い、
日本人の漢字漢文受容の歴史を描きます。

目次

本書の目的

凡例

第一章 直読と訓読

――現代と平安時代――

第二章 平安時代儒学界の直読と訓読

――『宇津保物語』と『北山抄』『江家次第』――

第三章 〈直読から訓読へ〉

――直読の衰退――

第四章 平安時代の訓読

――『白氏文集』――

第五章 『宇津保物語』併存の再検討

第六章 平安時代儒学界と直読

第七章 儒学界と仏教界

第八章 〈直読から訓読へ〉の周辺

結語

参考文献

後記

執筆者紹介

(ゆざわ・ただゆき)一九四三年群馬県前橋市生まれ。

専門は日本語史研究。東京教育大学文学研究科修士課程
修了。博士(文学)筑波大学。佐伯国語学賞。山形大学、筑波
大学、京都女子大学に勤務。

著書に『唐音の研究』(勉誠社、一九八七年)、『日本漢字音
史論考』(勉誠社、一九九六年)、『古代日本人と外国語』(同
増補改訂) (勉誠出版、二〇一一年)、『音声・音韻探求法』
(松崎寛と共著、朝倉書店、二〇〇四年)、『近世儒学韻学
と唐音』(勉誠出版、二〇一四年)、『漢字は日本でどう生き
てきたか』(開拓社、二〇一七年)などがある。

定価 3,520 円(本体価格 3,200 円)

四六判・並製カバー装・240頁
ISBN978-4-585-38006-1 C1081
2024年5月刊行

書名	部数
日本人は漢文をどう読んだか 直読から訓読へ 湯沢質幸 [著]	部
定価 3,520 円(本体 3,200 円) 四六判・並製カバー装・240頁 ISBN978-4-585-38006-1 C1081 2024年5月刊行	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

古典籍の 文献学

鶴見大学図書館の蒐書を巡る

『伊勢物語』、『源氏物語』などの物語、歌集・歌学書、古筆切、仏書、漢籍、洋学資料…。鶴見大学図書館では、文献資料に基づく実証的研究を伝統とし、その時々々の教職員が書物に対する深い関心と集書への熱意によって、徐々に貴重な古典籍が蒐集されてきた。そのコレクションは全国でも屈指の収蔵点数を誇っており、まさに「宝庫」と呼ぶに相応しい。鶴見大学図書館が七十年の長きにわたり、博搜と収蔵に取り組み続け、守り伝えてきた宮為とその魅力をあますところなく紹介する。

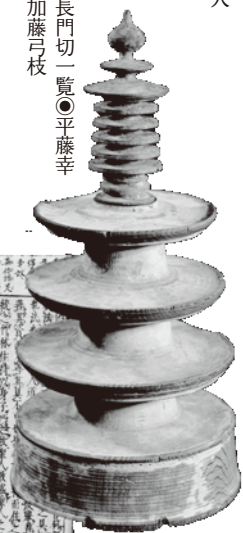
鶴見大学図書館の貴重書——これまでとこれから ●伊倉史人

第一部……物語と歌書

伊勢物語 ●久保木秀夫
源氏物語——河内本または別本を含む写本 ●田口暢之
『平家物語』長門切——鶴見大学図書館断簡を中心に 付長門切一覽 ●平藤幸
改竄された仮名遣い——契沖筆、古今和歌集」とその模刻 ●加藤弓枝
新古今和歌集——鎌倉期写の残欠本 ●田口暢之
十三代集とその周辺——「写字白田蔵本と尊円筆、風雅和歌集」 ●石澤一志
御室撰歌合と千五百番歌合 ●田口暢之
鶴見大学図書館蔵伝後京極良経筆和漢朗詠集について ●山本まり子
古筆切・古筆手鑑 ●久保木秀夫
無訓の金沢文庫切 ●新沢典子
院政期歌学書の善本——『俊頼髓脳』を中心に ●伊倉史人
新収の古今注——伝轉法輪公教筆、古今和歌集注の紹介 ●河田翔子

第二部……仏書・漢籍・洋学・アーカイブ

鶴見大学図書館所蔵品をとおしてみる本邦における仏典の書写・請求・印刷 ●宮崎展昌
聖教を披き、「宝蔵」を思い描く ●小島裕子
禅籍ではじまる日本出版文化 ●万波寿子
仏教文化研究所——總持寺・瑠山禪師の探求と大遠忌関連事業 ●尾崎正善
鶴見大学所蔵の中国漢籍——三槐堂王乾字刊、烏臺正詒凌雲詩経 ●金文京
開国の足音——オールコック、初学者用日本文法綱要 ●遠藤佳那子
でんしかししょう！ ●大矢一志



定価 2,200円・本体2,000円
B5判並製・オールカラー・120頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-30725-9 C1000



<p>書名 [書物学 25] 古典籍の文献学 鶴見大学図書館の蒐書を巡る 編集部(編)</p>	<p>冊数 冊</p>
<p>定価 2,200円・本体2,000円 B5判並製・オールカラー・120頁 2024年3月刊行 ISBN978-4-585-30725-9 C1000</p>	
<p>ご送付先ご住所 (通信欄)</p>	

古畑侑亮 [著]

コレクションと

歴史意識

十九世紀日本のメディア受容と
「好古家」のまなざし書籍や古器物の蒐集に明け暮れた「好古家」のコレクションから、
十九世紀の歴史意識に迫る

ヒト・モノ・情報の流通が成熟していった十八世紀半ば、

それらをひたすらに集め、記録し、

「過去」に想いを馳せる人々が各地に現れてきた

——古いものに強いこだわりをもった彼らは、

「好古家」と呼ばれるようになる。

「好古家」たちは、明治の世を迎えてからも古いものへの関心を失うことはなかった。

前時代の学者に憧れ、それまでの学問蓄積やネットワークを引き継ぎつつ、

新しい学知やメディアをも使いこなすことで知識を深め、

「江湖」に同好の士を求めていったのである。

ときに新聞・雑誌に載って共有・発信されたその営為の痕は、

いまも刊行物やコレクションとして遺され、

歴史学をはじめとした人文学研究の基盤となっている。

幕末・明治という転換の時代を生きた一人の「好古家」に視座を置き、

彼が遺した書簡や紀行文、編纂物を手がかりとしてそのコレクションを紐解く。

そこから見えてくるのは、蒐集活動の実態と

古いものへ注がれた熱いまなざしである。

大学という制度や学知が確立する以前の在野における歴史考証の実相と

アカデミズムへの継承を描き出す画期的著作。

目次

序章 「好古家」のコレクションに歴史意識を探る

第一部 「好古家」の蒐集活動と
近代メディア受容

第一章 随筆による知識の蒐集と活用

第二章 新聞・雑誌の購読と読者共同体

第三章 随筆からみえる歴史意識

第四章 新井白石著作の蒐集と予約出版

第二部 「好古家」のまなざしと歴史意識

第五章 考古学的知識の受容と
遺跡・遺物へのまなざし

第六章 旅先でのまなざしと歴史意識

第七章 旧旗本領における交友と同時代認識

第八章 小田原衆所領役帳をめぐる交友と歴史研究

終章 「好古家」のコレクションからみえる
十九世紀の歴史意識

あとがき

初出一覧

巻末付表「1-1」不如学齋叢書『叢書』項目・出典一覧

索引

定価 11,000円(税込)

[本体価格 10,000円]

A5判・上製カバー装・四〇八頁

ISBN978-4-585-32038-8 C3021

二〇二四年二月刊行

著者プロフィール

古畑侑亮

(ふるはた ゆうすけ)

一九九〇年生まれ。二〇二一年、一橋
大学大学院社会学研究科博士後期課
程修了。博士(社会学)。一橋大学大学院社会学研究科特任講
師(ジュニアフェロー)などを経て、現
在、親鸞仏教センター嘱託研究員。専門は日本近世史・19世紀史学。論
文に「刊行物にみる金沢甚衛の横顔」「社会事業の実践と歴史研究を中心
に」(『大倉山論集』第66輯、二〇二〇
年)、「明治初期の旧旗本領における
ネットワークと歴史意識」(『久松義
家』第23号、二〇二一年)、「幕末に
おける国学者の文献考証と遺跡認識」色川三中『黒坂命墳墓考』稿本の
比較から」(『土浦市立博物館紀要』第
33号、二〇二三年)などがある。

書名	部数
コレクションと歴史意識 十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし 古畑侑亮 [著]	部
定価 11,000円(本体 10,000円) A5判・上製カバー装・408頁 ISBN978-4-585-32038-8 C3021 2024年2月刊行	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

アーカイブズ学入門

定価 3,080円・本体2,800円

A5判並製カバー装・256頁・2024年6月刊行・ISBN978-4-585-30012-0 C1000

アーカイブズ学の基礎と理念を学ぶために

国立公文書館が認証アーキビスト制度を開始し、アーカイブズ学教育の重要性はますます高まっている。

これと並行して各大学・大学院でもアーカイブズ学教育を行うところは次第に増加している。

現代社会におけるアーカイブズの意義とは何なのか。

アーキビストとはどのような職務で、どのような心構えが必要なのか。

アーカイブズの定義、意義、原則、基本用語、組織やアーキビストなどについての基本知識を、

多数の図版・写真とともにわかりやすく解説。

これからアーカイブズ学を学ぶ人たちのための、必携の入門書!

民間資料や公文書の収集、整理、保存、利用等に関する専門的知識と技術の普及を目的として、国文学研究資料館が開催している「アーカイブズ・カレッジ」。その連続講義の初めての書籍化。

CONTENTS

第1講・現代社会とアーカイブズ……渡辺浩一

第2講・アーカイブズ資源論……藤實久美子

第3講・アーカイブズ・レコード・マネジメント論……中村崇高

第4講・民間アーカイブズ・コントロール論……太田尚宏

第5講・アーカイブズと情報コントロール……橋本陽

第6講・アーカイブズの記述編成……西村慎太郎

第7講・自然科学系のアーカイブズ……菊谷英司

第8講・地域とアーカイブズ……蓮沼素子

第9講・アーカイブズ管理・利用の実例①——神奈川県立公文書館の事例から……関根豊

第10講・アーカイブズ管理・利用の実例②——尼崎市立歴史博物館“あまがさきアーカイブズ”の事例から……河野未央

第11講・アーカイブズの保存修復……金山正子

第12講・アーカイブズの共用……加藤聖文

大学共同利用機関法人人間文化研究機構

国文学研究資料館・編

書名	冊数
アーカイブズ学入門 国文学研究資料館〈編〉	定価 3,080円・本体2,800円 A5判並製カバー装・256頁 2024年6月刊行 ISBN978-4-585-30012-0 C1000
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025